



# 特別賞

設計部門



## 岐阜公園遊具広場 ちびっこ天下広場

株式会社オオバ

小林高浩・松岡展展・小柳太二・木村晃一・丸山 昇・河村和紀

岐阜公園は、岐阜城を頂く金華山と、鶺鴒で名高い清流長良川に囲まれ、年間100万人以上が訪れる岐阜市を代表する公園です。金華山は国史跡に指定されており、同公園は歴史文化市民公園として再整備が進められています。一方、公園内にはかつて大型木製遊具がありましたが、老朽化のため数年前に撤去され子どものあそび場が少ないことが課題でした。

本計画は公園内に「親子と一緒に遊べる空間」の復活をめざす取り組みです。この地の歴史性と地形・植生が織り成す風致環境を活かす方針のもと、利用者ニーズを把握し、専門家の知見と専門企業のノウハウを統合する丁寧なプロセスによって、中世の歴史を感じるあそびの空間が誕生しました。

### 対象地の特性と課題

対象地は用水路（忠節用水）と県道に挟まれた傾斜のある樹林地でした。忠節用水は起源が戦国時代に遡る歴史ある用水路ですが、今では機能を失い水は淀んでいました。忠節用水にある既存施設の滝庭園（水辺テラス）は、園内の主動線から外れていて訪れる人は稀でした。また計画地の東には戦国時代の伝説が残る御手洗池がありました。対象地一帯は成り立ちが異なる空間が隣り合わせにあり、統一感が乏しい状況でした。

計画上の課題は、①傾斜地のバリアフリー動線、②樹木の保全、③忠節用水・御手洗池の歴史資源の活用、④周辺の駐車場・旅館街等とのアクセス改善、でした。

分析の結果、計画地内だけでは課題解決が困難なことが判明したため、整備区域の拡大を発注者に申し入れました。整備区域を忠節用水対岸の公園入口まで拡大できたことが、空間再編の足掛りとなりました。

### 作品概要

作品名—— 岐阜公園遊具広場 ちびっこ天下広場  
所在地—— 岐阜県岐阜市大宮町一丁目ほか  
発注—— 岐阜市 都市建設部 歴史まちづくり課  
設計—— 株式会社 オオバ  
監理—— 岐阜市 都市建設部 歴史まちづくり課  
設計期間—— 2014年8月～2015年3月  
施工期間—— 2016年10月～2018年3月  
規模—— 約0.4ha  
主要施設—— 幼児用遊具広場、児童用遊具広場、入口広場、滝庭園、御手洗池テラス

### 作品評

本作品は、年間100万人以上が訪れる岐阜公園の一部に、かつてあった「子どもと親と一緒に楽しめる遊び場空間」の復活を目指し、歴史を感じられる遊具広場を整備したものである。樹林が鬱蒼と茂る利用に適さない土地を、委員会での検討や子ども達へのアンケート、遊具メーカーによるアイデアコンペなどを重ね、当初の整備区域を拡大して、岐阜公園の歴史性と公園の新たな魅力を兼ね備えた遊具広場を実現した。また、単に独創的な遊具を設置しただけではなく、対象地の持つ地形・樹林・用水などの歴史文化資源の活用などの肌理細かな配慮がなされていることや、開園後、多くの市民や地元の子も達が利用する遊びの場・憩いの場として定着している点も評価され、特別賞となった。

設計部門



①児童用遊具エリアは「動」の空間。戦国時代の砦をイメージした冒険心あふれる遊具 ②大木の木陰を休憩場所としている ③幼児用遊具エリアは「静」の空間。古民家をイメージした茅ぶき屋根風の遊具 ④忠節用水脇の擁壁上部を切除。死角をなくして安全性と眺望性を高めた ⑤開園式典。この日の主役は子どもたち ⑥現地検討の様子（検討委員会） ⑦滝庭園から遊具広場を望む。忠節用水との一体化を図った ⑧滝庭園から入口広場を望む。分断されていた場所を動線で結び、忠節用水を跨ぐ賑わいの空間に再編した ⑨入口広場。長良川温泉街からのアクセス性を改善し、金華山が一望できる視点場とした。 ⑩遊具エリアに隣接する御手洗池。歴史的空間の静寂を保てるよう地被植物による緩衝帯を設けた

### 歴史と深い森の存在が、あそびの魅力を高める

遊具広場のコンセプトは検討委員会で丁寧に議論しました。そして、遊びのニーズを把握するため地元の小学校の生徒全員と保育関係者にアンケートを行いました。その結果、単なる楽しい遊具でなく、岐阜公園の歴史・文化・自然に相応しい、地域の宝となるあそび場を求めていることが分かりました。

検討会の委員を務める大学教授（名城大学 丸山宏教授、愛知県立芸術大学 水津功教授）と現地や大学研究室で協議を重ねました。そして検討委員会として「この地の歴史との整合」「新たな魅力となる独創性」を基本方針に定め、この方針を条件としてコンペ方式の遊具アイデア募集を行いました。6社の遊具メーカーから応募があり、検討委員会委員によるプレゼン審査を経て、コンセプトを最も魅力的に体現した遊具デザインが選定されました。

### 永く親しまれることを願って

工事には2年を要して平成30年3月に完成しました。開園に先立って市役所が愛称を公募したところ、全国から1,419件の提案が寄せられ、審査の結果、愛称が「ちびっこ天下広場（略称ちびてん）」に決まりました。この愛称は「天下統一を目指した信長にちなみ、子どもたちが遊具を制覇する、ちびっこみんなが天下」との提案者の想いが込められています。完成式典は桜が満開に咲く中、地域の子もたちも招かれて盛大に行なわれました。

今では常に多くの人々で賑わうあそびと憩いの場所として定着しています。今回の再整備の丁寧な取り組みが、「歴史ある公園にふさわしい本物志向の公園再生」の潮流として、引き継がれていくことを期待しています。